

「新しい学習指導要領完全実施を目の前にして、今一度…」

所長 出山 裕之

〔学力低下が話題になっているが…〕

学力低下の問題が叫ばれて久しいが、先日もある新聞に次のような記事が掲載されていた。

『ある自動車関連メーカーが新入社員に行っている“算数テスト”の成績は昨年、100点満点で平均50点を割った。図面が読めない若手が増えたため、基礎学力を検証しようと、2007年に技術系の新人と50代社員にテストを試みた。結果はショッキングだった。小6～中3程度の問題で、大学院卒が多い新人の平均は55点。高卒が多い50代より30点低かった。幹部は「コンピュータがいくら発達しても、簡単な計算ができないのではミスを起こす」と憂う。』

まさに学力低下をあらわしている一事象であると言えよう。しかし、今後、学力向上を目指していくことは当然であるが、だからといってそれ一辺倒になってしまうことを危惧する。

〔あらためて【生きる力】とは？〕

今年度（平成21年度）から全国の小学校・中学校において、今までの学習指導要領の理念である【生きる力】をはぐくむことを引き継いだ新しい学習指導要領の一部が先行実施されている。新しい学習指導要領の実施＝学力向上と捉えがちであるが、今一度【生きる力】とは何かをおさえて指導に当たっていくことが求められる。

【生きる力】

- ・基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力 など

このように『人間性』や『健康や体力』を含め、【生きる力】の育成を新しい学習指導要領は理念としているのである。とかく、移行期となると、『各教科の時数は？』『学習内容でなくなったものは？増えたものは？』に目が向いてしまう傾向にあるが（これも大切なことであるが）『人間性』や『健康や体力』の育成も含めて、取り組んでいくことが求められている。確かにどれ一つをとっても達成していくことが容易なことではないことは勿論である。

〔子どもを主人公に… - 組織として - 〕

ここで、新学習指導要領を実施していく上で、欠かせない要因として、児童・生徒の実態があげられる。実態に基づいて、当面、各学校が目指すものの軽重や順序立てを考えていくことが求められる。

そのためにも、各学校において子どもを主人公とした議論を大いにやって欲しいものである。各学校で、これからの時代を生きる子どもにどんな力を付けていくのか、現状から次のステップに子どもをどう導いていくのか、というまず子どもありきの視点に立った、前向きな姿勢で取り組む集団＝組織でありたい。先生方一人一人の子どもに対する熱い思いや互いの語らいが基となり、日々向上を目指そうとする実践力につながることを期待する。

- おわりに -

小説家であり、天台宗の尼僧である瀬戸内寂聴さんが次のように話しています。

『世の中は大きな編み物と思ってください。

編み物は一目一目編んでいきます。

編み物の目が、右の目と左の目と、上の目と下の目と、ずつつながっているから次から次へとつながって、暖かいマフラーや素敵なテーブル掛けになるのです。

あなたはその編み物の一目なのです。』

この言葉には続きがあります。

『虫に食われたりしたら大変です。

上下左右たくさんの編み物に迷惑をかけてしまう。

小さくても自分がしっかりとした一目でいること。

小さくてもあなたの存在は大切なのです。

しっかりしなさい。』

『世の中は』で始まる言葉を『学校は』と置き換えて読み直してみると、『暖かいマフラーや素敵なテーブル掛け』が『子ども達の成長』と解釈できるのは、私だけでしょうか。



管理課から

「学校職員の休暇等の取扱いについて」の一部改正について

～「子育て休暇の取得要件の追加」～

平成21年11月1日より、次の疾病予防のため、予防接種を行う場合にも「子育て休暇」を取得することができるようになりました。

【新しく追加された疾病】

ア インフルエンザ（新型インフルエンザ等感染症を含む。）
イ 流行性耳下腺炎（おたふく風邪）
ウ 水痘（水ぼうそう）

【これまで規定されていた疾病】

ジフテリア、百日咳、急性灰白髄炎（ポリオ）、麻しん、風しん、
日本脳炎、破傷風、結核（ツベルクリン反応検査を含む。）

平成21年度東上総モラルアップ委員会の活動について

今年度の東上総モラルアップ委員会は、5月22日（金）の第1回委員会において、委員長に大網白里町立季美の森小学校の中村敏行校長が、副委員長に茂原市立鶴枝小学校の天羽壽一教頭と千葉県立長生高等学校の渡邊隆教頭が選出されました。また、今年度は、昨年度の意見を生かして大きな二つのことを行うことを決定しました。

一つめは、「校内モラルアップ委員会代表者会議」を8月20日（木）に開催することでした。これは東上総教育事務所と東上総モラルアップ委員会が主催し、校内のモラルアップ委員会の活性化及び学校間における連携を強化することにあります。代表者会議は、3校の事例報告と岩瀬俊隆大原高等学校長の講話、さらには班別協議と中身の濃い会議となりました。

二つめは、モラル向上のための「校内研修事例集第4集」を作成して、各学校に配付することでした。「事例集第4集」は、去る11月27日（金）に開催された第2回教育長・校長合同会議において、管内の各教育委員会と各学校に配付されました。この席で中村委員長は、事例集を活用した校内研修を、12月より開催するようお願いしたところです。

モラルとは「やる気・士気」という意味です。東上総モラルアップ委員会の目的は、管内すべての教職員が、教育現場の不祥事防止のため、抜本的な対策を自主的に協議し、職場（風土）のモラルアップに立ちあがるための提言を行うことです。今後も、管内の各学校や教職員がモラルを向上し、日々元気に児童生徒と対応できるように、各学校や教職員個々の取組の強化をお願いします。

「訪問を終えて」

今年度は、所長訪問70校、合同訪問67校を実施しました。多くの学校が訪問を前向きに受け止め、学校経営の診断の機会として捉えている姿がうかがえました。また、多くの場面で活動の充実ぶりが見られました。そして、概要説明と授業実践が連動し、教師と児童生徒が豊かな人間関係の中で、学習している姿を参観することができました。学習の約束事が浸透している学校も多く、ベテランの教師の力量の高さを見ることができました。

協議の時間には、管理課の重点目標（不祥事防止・適切な学校評価・勤務時間の適正管理）の取組状況を確認しました。また、話題になった主な内容としては、「小・中の連携、小学校間の連携」と「開かれた学校、地域連携、学校評価」がありました。1点目の「小・中の連携、小学校間の連携」については、小規模化する学校をいかに活性化するか、中学校への接続をいかにスムーズにするかという視点から、学校行事のみならず教科指導における連携の必要性についても協議しました。2点目の「開かれた学校、地域連携、学校評価」については、保護者・地域に、どのようにして学校の教育活動をアピールしていくか、学校の様子をいかにわかりやすく伝えるかについて協議しました。

多くの学校で、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる児童生徒の姿に触れることができました。あらためて、各校の日々の取り組みに敬服する次第です。今後、ますます、児童生徒を中心に据えた特色ある学校づくりが充実していくことを期待しています。

指導室から

改訂学習指導要領（体育分野）完全実施に向けて

新しい学習指導要領では，体育科，保健体育科については，その課題を踏まえ，生涯にわたって健康を保持増進し，学習したことを実生活や実社会において生かすことを重視し，豊かなスポーツライフを実現することを目指しています。そこで，小学校・中学校・高等学校の12年間の学校段階の接続及び発達の段階に応じて以下のような，指導内容の体系化を図っています。各学校には，新学習指導要領の趣旨を生かした指導計画の作成，実践が望まれます。

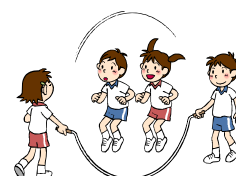
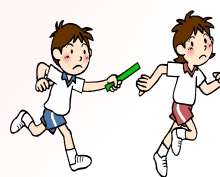
体育の分野 指導内容の体系化

小学校			中学校			高等学校		
1・2年	3・4年	5・6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
様々な動きを身につける時期		多くの運動を体験する時期			少なくとも一つのスポーツに親しむ時期			
体 つ く り 運 動								
器械器具運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動		器械運動		
走跳の運動遊び	走跳の運動	陸上運動	陸上運動	陸上運動		陸上運動		
水遊び	浮く泳ぐ運動	水泳	水泳	水泳		水泳		
表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス		ダンス		
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技		球技		
			武道	武道		武道		
			体育理論			体育理論		
	保健領域		保健分野			科目保健		

体育の授業マイスター推進事業について

体育の授業において優れた指導力を有している教員を，「体育の授業マイスター」として認定し，その指導技術を記録（写真やDVD等）に収めて活用したり，体育の授業の支援をしたりするなど，県下の小学校の体育の授業改善に役立てるものです。

DVD（2009体育の授業実践集）は各市町村教育委員会で貸し出しています。ご活用ください。



「いきいきちばっ子健康・体力づくりモデルプラン」
「遊・友スポーツランキングちば」の活用を！

生活習慣チェック表及び遊・友スポーツランキングの申告方法等は，千葉県教育委員会のホームページに掲載されています。各学校の実態に応じた活用をお願いします。

遊・友スポーツランキングの後期申請期間は，12月1日から2月26日です。

総務課から

「学校事務の共同実施連絡協議会」について

複数の学校の連携による学校事務共同実施組織を確立し、学校事務の強化と、学校運営に関する支援を行うことを目的として、今年度から管内すべての市町村におきまして、そのための実施組織が立ち上げられ、現在各地区で活発に共同実施が行われております。

当事務所では、この共同実施を行うにあたっての課題や成果について情報交換を行い、今後の実践に生かすため、市町村教育委員会担当課長、各地区校長代表者、事務職員代表者にお集まりいただき、「学校事務の共同実施連絡協議会」を開催しました。

今年度は2回開催しましたが、その概要は次のとおりでした。

第1回 平成21年 7月14日(火)

議 題

1 各地区における学校事務の共同実施状況

2 今後の推進体制について

*本事務所管内では、今年度から始めるといふ地区が多かったのですが、教育委員会、学校等関係者のご尽力によりすべての地区で体制が整い、活動を開始することができました。

第2回 平成21年12月14日(月)

議 題

1 各地区における共同実施の状況及び成果について

2 今後の課題及び方向について

協議における主な意見

- ・教育支援とは何か、県教委はもっと具体的に示してもらいたい。
- ・共同実施では、高度な秘密を扱う。責任の所在の整理をきちんとしておかなければならない。
- ・新規採用学校事務職員等、事務職員の資質の向上に効果が上がっている。
- ・今後も共同実施による加配を継続して欲しい。



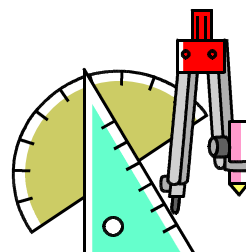
今年度の長期研修生からの報告

氏名 所属 研究領域

研究テ - マ

研究概要

長期研修の感想や今後の決意



岩澤 滋 東金市立鶺嶺小学校 社会

社会科教育/表現力を育成する単元構成の創造

- ・社会科教育研究の変遷内における表現力との関わり
- ・社会科教育における表現力の特異性とその在り方
- ・表現力と他の諸能力との関連と育成方法の実践・検証

この1年は研究の進め方や社会科教育の基礎的内容の再認識と自己の認識の浅さを感じさせられる日々だった。社会科は「公民的資質の育成」に向けて社会を読み解く教科であり、知識だけでなく認識構造にも常に検討・更新を繰り返していかなければならないことを感じ、教える側である教員の職務の重さも思う。2年目は理論から実践に向けて進めていくが、その中で自らの研究テーマが「社会科」が好きなこどもと教師を少しでも増やす一助となるように進められればと思う。

三橋 礼子 東金市立東小学校 国語

言葉の文化的価値を理解し継承する学習指導の研究

食文化に関する言葉の研究報告書作りを通して

言葉の語義や語源、語用を調べて言葉の理解を深め、言葉を集めて分析することで言葉に内在する風土や伝統文化、人々の想い等の文化的価値を認識し、文化としての言葉を継承する態度を育てる。食文化に関する言葉の研究報告書を書く活動を通して、情報活用力や表現力を高める。

自分の教育実践を見直す好機となった。学んだことを地域に還元するとともに、地域教材の開発を自身の課題として取り組んでいきたい。

高橋 和雄 大網白里町立大網中学校 社会

「思考力・判断力・表現力」を育む公民的分野の授業の在り方

- 法教育を活用した司法単元の実践を通して

法教育を活用した司法学習を通して、思考力・判断力・表現力の育成をめざした。法的価値を根拠にした思考・判断や公正な判断を求めての討論など、法教育の特徴と法教材を生かして単元と各時の授業を構成することで、司法や裁判の意義と役割についての認識を深めながら、問題解決の技能と社会参加への技能が育成されることが明らかになった。

研修の中で、裁判官・検察官・弁護士の方などから貴重な意見をうかがう機会に恵まれた。得難い体験を今後の研修に生かし、地域の先生方と法律の専門家の方とのネットワークを広げることで、法やルールに関する学習の充実に努めていきたい。

平山 恵久 横芝光町立東陽小学校 特別支援教育（発達障害）

自閉症・情緒障害学級に在籍する児童の交流及び共同学習における支援の在り方

交流及び共同学習について事務所管内の小学校にアンケート調査を実施し、担任間の連携や集団学習場面での支援方法に課題があることを明らかにした。「ICF関連図」を活用した児童の実態把握を行った上で、学習環境を整備することに視点を置いた交流及び共同学習を実践した。対象児の学習意欲の向上や、担任間の連携を密にした支援の在り方に有効性を示すことができた。

長期研修という貴重な時間をいただけたことに感謝しております。「必要な支援が行える特別支援教育」について今後も自らの研修を深め、通常の学級との連携を大切に、地域の特別支援教育を推進していきたい。



大塚 猛 茂原市立東中学校 英語

コミュニケーション能力を育成する指導のあり方

- 4技能統合型のプロジェクト学習を通して -

4技能統合型のプロジェクト学習が、コミュニケーション能力の育成に有効であることを、実践を通して検証した。課題を「友達を紹介しよう。」と設定し、解決の手立てとしてリスニング、シャド・イング、マッピング等に取り組んだ。まとめとしてスピーチを行い課題解決とした。生徒はコミュニケーションと4技能が深く関わることを実感し、4技能の力が向上した。

様々な研究や文献に触れることができ、充実した1年であった。今後は、長期研修で学んだことを、教科指導に生かし、現場や地域に還元していきたい。

木島 千景 茂原市立豊岡小学校 算数・数学

異種の二量の割合に関する考える力を育てるための指導の在り方

「単位量当たりの大きさ」の学習で、異種の二量の割合に関する考える力を整理し、単元プログラムに位置付けた。単位量当たりの大きさをういた比べ方を考えるための場面設定や発問の工夫、類推して考えるための素材の工夫に加えて、具体的表現と抽象的表現を相互に変換させる活動を行った。その結果、児童の単位量当たりでのつまずきが改善され、異種の二量の割合に関する考える力が育った。

この1年は、自分自身を見つめ直す貴重な時間となった。今後、この長期研修で学んだことを、少しでも先生方に還元できるようさらに研修を積んでいきたい。

齊藤 喜代美 長生村立高根小学校 教育臨床

集団の中で個を育てる学校教育相談のあり方

千葉大学では人の発達課題や心の構造等について認識を深め、千葉県子どもと親のサポートセンターにて実際に相談ケースを受け持ち、悩みを抱えている親子への支援方法について学ぶことができた。

教育臨床の長期研修は、教師としてひとりの人間として、自分の立っている足元を見つめる、学び多い1年間となった。学び得たことを自分の中で消化し、発信していけるよう今後も精進していきたいと思う。

片岡 啓子 長南町立西小学校 国語科

豊かな人間関係作りに生きるコミュニケーション教育のあり方 地域学習と学習のコミュニティ

「話す・聞く」の学習において地域人材との双方向な活動を取り入れて、人との交流を図り、地域への愛着を分かち合うことで人間関係作りに生きる力を涵養する、という単元を実践・考察した。

貴重な機会を頂きました。ここで得たものを地域の先生方と分かち合い、多くの先生方からご意見をいただいで一層研鑽を積んで参りたい。

川崎 妙子 いすみ市立大原小学校 教育臨床

子どもたち一人一人の発達課題に応じた指導のあり方

- 教育相談体制の充実をめざして -

千葉大学の講義や、自主的に参加した多くの研修会では、生徒指導や教育相談に関する専門的な理論や技法を学ぶことができた。サポートセンターの研修では、困っている子どもや保護者の気持ちに寄り添い、支えていくことの大切さを改めて感じた。児童相談所や保護観察所等の施設視察を通して、関係諸機関との連携が不可欠であることを再認識した。

理論と実践の両面から研修を深めることで、自分の中でそれが結びついたことを実感できた。身につけたことを今後の教育実践で活かし、子どもたちのために力を尽くしていきたいと考えている。

長野 敏晴 勝浦市立勝浦小学校 体育

走運動の基本的な動きを身に付ける体育学習

- 低学年における運動遊びの学習を通して -

動きに「ぎこちなさ」が見られる低学年児童を対象に、走運動の基本的な動きを身に付ける運動遊びの授業実践を行った。児童は、遊びの要素を盛り込んだ教材で楽しく精一杯活動し、走運動に必要な基礎感覚や基礎技能を身に付けることができた。その結果、動きのぎこちなさが解消され、走動作の質的向上とともに走タイムの向上が図られた。

長研は自分探し。今年見たこと感じたことを力とし、新しい生活での第一歩を踏み出していきたいと思う。

松本 聡 大多喜町立大多喜中学校 理科

学んだ知識・技能の活用力を育む太陽の学習

- 観察に数学的活動を関連付けた学習プログラムの開発 -

太陽の観察と、その結果を理科や数学で学んだ知識・技能を活用してまとめ、理解する学習プログラムを開発した。具体的には、日時計の原理を利用した教材を開発し、その観察記録と図形の知識等を活用して、観測地の季節を推測する学習を展開した。その結果、生徒が太陽の動きと実生活とのつながりを実感をもって理解し、学習成果を活用する力を育むことができた。

最新の科学技術や、先進的な研究にふれる機会にも恵まれ、大きな糧を得ることができた。この長期研修で得たことをこれからの教育活動に生かすとともに、さらなる自己研鑽に努めていこうと思う。このような機会を与えてくださった関係諸機関の先生方に心より感謝申し上げたい。